



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/26 (月)	+ 400	+ 31,500	+ 31,900	国庫短期証券 発行・償還 (6M)	国債補完供給 + 12,552		日：黒田日銀総裁、挨拶・記者会見 (大阪経済4団体共済懇談会にて) 欧：ECB総裁、スピーチ (欧州議会経済金融委員会の公聴会にて)
9/27 (火)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000				米：消費者信頼感指数 (9月)
9/28 (水)	トン	▲ 17,000	▲ 17,000	国債発行 (40年)	新型コロナオペ ▲ 287,713 共通担保資金供給 ▲ 7,252		日：景気一致指数 (7月) 欧：ECB総裁、講演 (フランクフルトにて)
9/29 (木)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000				米：GDP (2Q、確定値) 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (9月)
9/30 (金)	▲ 300	▲ 2,900	▲ 3,200				日：完全失業率 (8月)、鉱工業生産 (8月) 欧：ユーロ圏CPI (9月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初20日、国債償還により先週末対比+8兆5,400億円の513兆3,400億円から始まった。その後大きな増減はなく、週末22日は514兆1,800億円 (速報) となり越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、先週末に引き続き資金調達のニーズが弱く20~21日は△0.052%で推移し、週末22日には△0.055% (速報) に低下した。ターム物は月内エンドの1-2W物を中心に△0.065%~△0.040%のレンジで取引された。9月21,22日に行われた日銀金融政策決定会合では、現状の金融緩和方針の維持が決定された他、コロナオペの期限延長や金額無制限の共通担保オペの実施について公表された。また、9月22日17時頃、政府・日銀により1998年6月以来24年ぶりとなる円買い介入が行われた。来週の主な予定としては、国内では26日に黒田日銀総裁の挨拶や記者会見、海外では28日にECB総裁による講演、30日にユーロ圏のCPIの発表などが挙げられる。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

### <レポ>

足許GC取引は週初△0.085%近辺から始まり、週を通して△0.09%~△0.08%の水準で推移した。積み最終日となる15日受渡しの取引や、新積み期入りする16日受渡しの取引でもレート水準に大きな変化は見られなかった。SC取引は2年430~440回債、5年148~153回債、10年350~367回債、20年171~181回債、30年65~75回債、40年9~15回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約5,000億円で、週間償還額 (約9,400億円) を下回った。発行市場は、連休により営業日数が3日となり、案件少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の28兆518億円から、22日時点で28兆1,652億円に増加した。市場残高は引き続き高水準で推移しており、発行レートは、0%から若干のプラスレートでの出会いとなった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (3兆6,600億円) を含み、約4兆4,400億円となっている。発行市場は、月末スタートが償還額より大幅に減少する見通しで、月初スタートの発行再開が見込まれる。発行レートは、0%近辺での出会いが多く、一部発行残高が積みあがった銘柄については若干のプラスレートを予想する。27日に、CP等買入オペが4,000億円で実施される予定となっている。

【レンジ】CP3M (a-1+) 0.000%~0.005% 現先取引 △0.050%~0.000%

### <TDB>

9月21日の3M1110回債の入札は、最高落札利回り△0.1716% (前回債△0.1135%)、平均落札利回り△0.1913% (前回債△0.1179%) となった。来週は9月30日に3Mの入札がある。